

第二條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ徵收スルコトヲ得ル國稅ハ左ニ掲グルモノニシテ納期ニ到リ税金ノ徵收ヲ完ウスルコト能ハスト認ムルモノニ限ル

一 納稅ノ告知ヲ爲シタル諸稅

二 當該年分ノ酒稅及煙草稅

三 製造斤數査定濟ノ鹽稅及收穫間數査定濟ノ人蔘稅

第三條 納稅義務者納稅管理人ヲ定メ又ハ之ヲ變更シタルトキハ其ノ氏名及住所若ハ居所ヲ府郡ニ申告スヘシ

納稅管理人其ノ氏名住所又ハ居所ヲ變更シタルトキハ之ヲ府郡ニ申告スヘシ

面ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ係ルトキハ前二項ノ申告ハ其ノ面ヲ經由スヘシ

第四條 國稅徵收令ニ依ル書類ノ送達ハ使丁又ハ郵便ニ依ルヘシ

第五條 納稅ノ告知、督促及滞納處分ニ關スル公告ハ府、郡ノ揭示場又ハ適當ノ場所ニ揭示シテ之ヲ爲スヘシ但シ必要ト認ムル場合ニ於テハ他ノ方法ニ依ルコトヲ得

第六條 收稅官吏國稅ヲ徵收セムトスルトキハ納稅義務者ニ對シ第一號樣式ノ納稅告知書又ハ朝鮮總督府通信官署現金受拂規則ニ依ル納稅告知書ヲ發スヘシ但シ收入官吏ニ納付セシムル場合ニ於テハ口頭ヲ以テ告知スルコトヲ得

第七條 面ヲシテ國稅ヲ徵收セシムルトキハ收稅官吏ハ第二號樣式ノ納稅通知書ヲ發スヘシ

前項ニ依リ納稅通知書ヲ發シタル後納額ニ異動ヲ生シタルトキハ更ニ其ノ增加額ニ對スル納額通知書又ハ第三號樣式ノ減額通知書ヲ發スヘシ

第八條 面納額ノ納稅通知書ヲ受ケタルトキハ納稅義務者ニ對シ第四號樣式ノ納稅告知書ヲ發スヘシ

面ハ第五號樣式ノ收納簿ヲ設備シ税金ノ收納ニ關スル事項ヲ之ニ記入スヘシ

第九條 第一條但書ニ依リ直接納稅義務者ヨリ税金ヲ納付セシムル場合ニ於テハ收稅官吏ハ納稅義務者ノ氏名、住所若ハ居所、稅額及直接納付ノ告知ヲ爲シタル旨ヲ其ノ面ニ通知スヘシ

第十條 國稅徵收法第四條ノ一ニ依リ納期ノ到ラサル税金ヲ徵收セムトスルトキハ收稅官吏ハ納期ヲ定メ第六條ニ依リ納稅告知書ヲ告知シ且納期繰上ノ事由ヲ通知スヘシ若シ納稅告知書ヲ爲シタル後ナルトキハ納期日ノ變更ヲ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テ納稅通知書ヲ發シタルモノナルトキハ減額通知書ヲ發スヘシ

第十一條 納稅義務者納稅告知書ヲ受ケタルトキハ税金ニ納稅告知書ヲ添ヘ之ヲ指定ノ場所ニ納付スヘシ

第十二條 面ニ於テ税金ヲ徵收シタルトキハ納稅義務者ニ領收證ヲ交付シ收納簿ニ收入年月日及金額ヲ記入スヘシ

面ニ於テ徵收シタル税金ハ第六號樣式ノ納付書又ハ朝鮮總督府通信官署現金受拂規則ニ依ル納付書ヲ添ヘ通滯ナク金庫又ハ國庫金ヲ取扱フ通信官署ニ納付スヘシ

第十三條 面カ國稅徵收法第八號第一項ニ依リ税金送付ノ責任ノ免除ヲ請ハムトスルトキハ道長官ヲ經由シ申請スヘシ

道長官前項ノ申請ヲ受理シタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ意見ヲ具シ朝鮮總督ニ送付スヘシ

第十四條 面ニ於テ徵收スヘキ國稅ヲ其ノ納期限ヲ過キ納付セサル者アルトキハ面長ハ第七號樣式ノ滞納者報告書ヲ府郡ニ提出スヘシ

第十五條 國稅徵收法第九條ニ依リ納稅ノ督促ヲ爲サムトスルトキハ收稅官吏ハ第八號樣式ノ督促狀ヲ發スヘシ

督促狀ヲ發シタルトキハ督促手数料トシテ滞納稅額百分ノ一二相當スル金額ヲ徵收ス但シ其ノ

金額十錢ニ滿テサルトキハ十錢トス

第十六條 督促狀ニハ金庫ニ納付セシメムトスル場合ニ在リテハ第六號様式及第九號様式ノ納付書ヲ、國庫金ヲ取扱フ通信官署ニ納付セシメムトスル場合ニ在リテハ朝鮮總督府通信官署現金受拂規則ニ依ル納付書ヲ添附スヘシ但シ收稅官吏ニ於テ納稅告知書ヲ發シタル稅金ニ付テハ納付書ヲ添附スルコトヲ要セス

第十七條 納稅義務者督促狀ヲ受ケ稅金及督促手数料ヲ收稅官吏ニ納付スルトキハ納稅告知書ヲ、金庫又ハ國庫金ヲ取扱フ通信官署ニ納付スルトキハ納稅告知書及納付書ヲ之ニ添附スヘシ但シ面ノ發シタル納稅告知書ハ之ヲ添附スルコトヲ要セス

第十八條 滯納報告後督促狀發付前稅金ヲ納付スル者アルトキハ第十六條ノ例ニ準レ納付書ヲ交付シ之ヲ稅金ニ添附セシムヘシ

第十九條 國稅徵收法第十一條ニ規定スル證票ハ第十號様式ニ依ルヘシ

第二十條 差押フヘキ財產管轄區域外ニ在ルトキハ收稅官吏ハ其ノ財產所在地ヲ管轄スル收稅官吏ニ滯納處分ノ引繼ヲ爲スヘシ

第二十一條 差押フヘキ財產數人ノ共有ニ係ルモノナルトキハ滯納者ニ屬スル持分ニ就キ滯納處分ヲ爲シ其ノ持分ノ定メナキトキハ持分相均シキモノトシテ處分スヘシ

第二十二條 收稅官吏財產ヲ差押ヘタルトキハ第十一號様式ノ差押證書ヲ作り立會人ト共ニ之ニ署名捺印スヘシ但シ立會人ニ於テ署名捺印ヲ拒ミ又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ附記スヘシ

前項ノ規定ハ債權ノミノ差押ニハ之ヲ適用セス

第二十三條 收稅官吏債權ノ差押ヲ爲ストキハ債務者ニ對シ第十二號様式ノ債權差押通知書ヲ發スヘシ

第二十四條 質權、抵押權又ハ典當權ノ設定セラレタル財產ヲ差押フルトキハ收稅官吏ハ其ノ債權者ニ對シ第十三號様式ノ財產差押通知書ヲ發スヘシ

國稅ニ對シ先取權ヲ有スル債權者前項ノ通知ヲ受ケ其ノ權利ヲ行使セムトスルトキハ證憑書類ヲ添ヘ共ノ事實ヲ證明スヘシ

第二十五條 裁判上ノ假差押又ハ假處分ヲ受ケタル財產ヲ差押フルトキハ之ヲ當該裁判所、執行官吏又ハ強制管理人ニ通知スヘシ

第二十六條 左ノ場合ニ於テハ收稅官吏ハ財產ノ差押ヲ解クヘシ

- 一 差押物件滯納者ノ權利ニ屬セサルコト判明シタルトキ
- 二 公買期日ノ前日迄ニ滯納者又ハ第三者ヨリ督促手数料、滯納處分費及稅金ヲ完納シタルトキ
- 三 財產ヲ差押ヘタル後國稅徵收法第十二條ニ依リ滯納處分ノ執行ヲ止ムヘキコトヲ發見シタルトキ

第二十七條 公買ハ入札又ハ競賣ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

公買ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

- 一 滯納者ノ氏名及住所若ハ居所
- 二 公賣財產ノ名稱、數量、性質、所在其ノ他重要ナル事項
- 三 入札又ハ競賣ノ場所、日時
- 四 開札ノ場所、日時
- 五 保證金ヲ徵收スルトキハ其ノ金額
- 六 代金納付ノ期限

競買ノ方法ニ依リ財産ヲ公賣スルトキハ競買人ヲ選ビ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第二十八條 財産公賣ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ加入保證金又ハ契約保證金ヲ徵スヘシ加入保證金ハ買受人各自ノ見積價格百分ノ五以上、契約保證金ハ買受價格百分ノ十以上トシ公賣ノ時時之ヲ定ム

落札者又ハ買受人義務ヲ履行セサルトキハ其ノ保證金ハ政府ノ所得トス

第二十九條 公賣ハ財産所在ノ面ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ收稅官吏ニ於テ必要ト認ムルトキハ他ノ地方ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十條 公賣ハ公告ノ初日ヨリ七日ノ期間ヲ過キタル後之ヲ執行スヘシ但シ其ノ物件多額ノ保管費ヲ要シ若ハ著シク其ノ價格ヲ減損スルノ虞アルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 收稅官吏ハ公賣ニ付スヘキ財産ノ價格ヲ見積リ之ヲ封書トシテ公賣ノ場所ニ置クヘシ

第三十二條 入札ノ方法ヲ以テ公賣ニ付スル場合ニ於テ落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者二名以上アルトキハ其ノ同價ノ入札人ヲシテ追加入札ヲ爲サシメ落札者ヲ定ム追加入札ノ價格仍同シキトキハ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ム

第三十三條 財産ヲ公賣ニ付スルモ買受人ナキカ又ハ其ノ價格見積價格ニ達セサルトキハ更ニ公賣ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 公賣財産買受人代金納付ノ期限迄ニ其ノ代金ヲ完納セサルトキハ其ノ買買ヲ解除シ更ニ之ヲ公賣ニ付スヘシ

第三十五條 前二條ニ依リ再公賣ヲ爲ス場合ニ於テハ第三十條ノ期間ヲ短縮スルコトヲ得

第三十六條 賣却シタル財産ニ付滞納者ヲシテ權利移轉ノ手續ヲ爲サシムル必要アルトキハ收稅官吏ハ期限ヲ指定シテ其ノ手續ヲ爲サシムヘシ

前項ノ期限内ニ滞納者其ノ手續ヲ爲ササルトキハ收稅官吏ハ滞納者ニ代リテ之ヲ爲スコトヲ得

第三十七條 公賣物件ノ買受人又ハ競買人ハ第十四號様式ノ納入書ヲ添ヘ其ノ代金ヲ納入スヘシ

第三十八條 國稅徵收法第四條ノ第一號乃至第六號ニ該當スル場合ニ於テハ收稅官吏ハ當該官廳公共團體執行裁判所執行官吏強制管理人、破産主任官又ハ清算人ニ對シ督促手帳料、滞納處分費及滞納税金ノ交付ヲ請求スヘシ但シ他ニ差押フヘキ財産アルトキハ之ヲ差押フルコトヲ妨ケス

第三十九條 滞納處分ヲ終了シタルトキハ收稅官吏ハ第十五號様式ノ計算書ヲ作り之ヲ滞納者ニ交付スヘシ

賣却シタル財産ニ對シ質權、抵當權又ハ典當權ヲ有スル者ハ其ノ計算ニ關スル記録ノ閱覽ヲ收稅官吏ニ求ムルコトヲ得

第四十條 督促又ハ滞納處分ニ關シ使丁ヲ以テ書類ノ送達ヲ爲ストキハ第十六號様式ノ送達書ニ受取人ヲシテ署名捺印セシムヘシ

附則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ使用スル帳簿ハ明治四十四年度分ニ限り引續キ使用スルコトヲ得

第一號様式

納稅告知		第「何」號	「何」年度	「何」府(郡)「何」面	「何」納	「何」分
大藏省主管	朝鮮總督府	租稅	稅目	年	期	分
税金「何」	何	何	何	何	何	何
用紙寸法	橫六寸五分	縱三寸五分	輪重寸法	橫五寸	縱二寸五分	

書 知 通

右明治、何年、何月、何日、何限、何金庫、何府(郡)ノ納付スヘシ
 明治、何年、何月、何日 何府(郡)守、氏 名、題

領 收 證 書

第「何」號、何年度 何府(郡)何面 某納
 一金、何程 何、何年、何期分
 明治、何年、何月、何日、何限、何金庫、何府(郡)守、氏 名、題

通 知 書

第「何」號、何年度 何府(郡)何面 某納
 經 常 租 稅 何、何(稅目) 何、何年、何、何期分
 何、道、何府(郡) 何、何程
 明治、何年、何月、何日、何限、何金庫、何府(郡)守、氏 名、題

減 額 通 知 書

第「何」號、何年度 何府(郡)何面 某納
 朝鮮歲入 租 稅 何、何(稅目) 何、何年、何、何期分
 一金、何程

備 考

一 領收證書及通知書用紙ノ納入金額、納入年度科目等ハ總テ納稅告知書發行者ニ於テ記入スヘシ
 二 收入官吏本書ニ依リ税金ヲ領收スルトキ督促手数料ノ收入ヲ要スルモノアルトキハ本書中ニ科目金額ヲ併記シ第九號様式ノ納付書ヲ省略スルコトヲ得但シ年度ヲ異ニスルトキハ此ノ限ニ在ラス
 三 收入官吏本書ニ依リ税金ヲ領收スルトキハ明治二十六年大藏省令第三十二號ノ現金領收證ヲ發スルコトヲ要セス
 四 收入官吏税金ノ領收ヲ爲ストキハ本様式納稅告知書餘白ニ領收濟年月日ヲ記入シ收入官吏檢印ヲ爲シ領收通知書ヲ省略スルコトヲ得

用紙寸法
 横六寸五分
 横三寸五分
 横二寸五分

書 知 通 額 納

第「何」號、何年度 何府(郡)何面 某納
 朝鮮歲入 租 稅 何、何(稅目) 何、何年、何、何期分
 一金、何程

減 額 通 知 書

第「何」號、何年度 何府(郡)何面 某納
 朝鮮歲入 租 稅 何、何(稅目) 何、何年、何、何期分
 一金、何程

備 考

一 人別納額ノ通知ヲ要スル場合ニハ一人別納額調書ヲ添附スヘシ

用紙寸法
 横六寸五分
 横三寸五分
 横二寸五分

書知

明治何年何月何日何日 稅納通知書ノ内右款類ス

「何」府(郡)守(氏) 名「何」

備考

一人別納額ノ異動ヲ要スル部分ノ調書ヲ添附スヘシ

第四號様式

納稅告知書

第「何」號「何」稅「何」年「何」期分「何」湖(里)「何」某「納」
一金何程

右何年何月何日何日限而事務所ニ納付スヘシ

明治何年何月何日 「何」而某「店」 名「何」

取扱者印

領收證

第「何」號「何」稅「何」年「何」期分「何」湖(里)「何」某「納」	「何」年「何」月「何」日
一金何程	明治何年何月何日領收

第五號様式

何年度何稅收納簿

年 月 日	納	要	納	未
「何」年「何」月「何」日	「何」湖(里)「何」某	「何」湖(里)「何」某	「何」湖(里)「何」某	「何」湖(里)「何」某
「何」年「何」月「何」日	納稅報告			
「何」年「何」月「何」日				
「何」年「何」月「何」日				
「何」年「何」月「何」日				
「何」年「何」月「何」日				

備考

本簿ハ稅目別ニ別冊ニ調製シ一年度間使用ノ見積ヲ以テ適宜ノ行數ヲ設クヘシ但シ地稅、戶稅ヲ除キタル以外ノ各稅ハ合纏シ口座ヲ分テ整理スルコトヲ妨ケズ
一稅目毎ニ合計ヲ附シ毎日ノ額定額、收納額及未納額ヲ明ニスヘシ

第六號様式

納付

明治何年度	「何」府(郡)「何」面「納」
朝鮮歲入 租 稅 何稅(目)	「何」年「何」期分
「何」道「何」府(郡)	

用紙寸法
縦六寸五分
横三寸

第九號様式

<p>促 状</p> <p>一金何程 ○ 督促手数料</p> <p>右「何」月「何」日限「何」金庫(何)郵便局(所)「何」府(郡)「何」納付スル此ノ期限ヲ過キ完納セザルトキハ財産差押ノ處分ヲ爲スルニ</p> <p>明治「何」年「何」月「何」日 「何」府(郡)守(長) 名「何」</p>		<p>納 付 書</p> <p>明治「何」年度 「何」府(郡)「何」面 「何」 某納</p> <p>朝鮮歳入 雜收入 手数料</p> <p>「何」道「何」府(郡)</p> <p>一金何程</p> <p>明治「何」年「何」月「何」日</p>	<p>通 知 書</p> <p>明治「何」年度 「何」府(郡)「何」面 「何」 某納</p> <p>朝鮮歳入 雜收入 手数料</p> <p>「何」道「何」府(郡)</p> <p>一金何程 ○ 督促手数料</p> <p>明治「何」年「何」月「何」日領收 「何」 金 庫 印</p>
--	--	---	---

第十號様式

<p>領 收 證 書</p> <p>明治「何」年度 「何」府(郡)「何」面 「何」 某納</p> <p>雜 收 入 手 数 料</p> <p>一金何程 ○ 督促手数料</p> <p>明治「何」年「何」月「何」日 「何」 金 庫 印</p>		<p>備 考</p> <p>一 收入官吏ニ於テ督促手数料ヲ領收セムトスルニハ本書ニ依リ領收證ヲ交付シ明治二十六年大藏省令第三十二號ノ現金領收證ヲ省略スルコトヲ得</p> <p>二 收入官吏ニ於テ領收ヲ爲ストキハ本様式納付書中餘白ニ領收證年月日ヲ記入シ收入官吏檢印ヲ爲シ領收證通知書ヲ省略スルコトヲ得</p> <p>三 督促手数料ニシテ租稅ノ所屬年度ノ同一ナルモノハ租稅ノ納付書中ニ科目金額ヲ併記シ本様式ノ納付書ヲ省略スルコトヲ得</p>
---	--	--

用紙厚紙 縦二寸五分 横一寸五分

<p>表</p> <p>第「何」號</p> <p>國稅納付者</p> <p>財産差押</p> <p>官吏証票</p> <p>府(郡) 廳 印</p>	<p>裏</p> <p>「何」府(郡)郵便局</p> <p>「官」氏 名</p>
--	--

- 四 營業用建物ノ構造設計書 平面圖(出入口竈道階間取換氣法ノ設備)及敷地ノ面積 客室ノ設ケナキ飲食店ニ在リテハ前項第四號ノ事項ヲ省略スルコトヲ得
- 第二條 營業用建物ハ検査ヲ受ケ廳長ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス 改築増築又ハ大修繕ノ場合亦同シ
- 第三條 營業者ニシテ自ラ營業ヲ管理セス若ハ管理スルコト能ハサル場合又ハ二月以上ニ亙ル旅行不在等ノ場合ハ五日以内ニ管理人ヲ定メ廳又ハ支廳ニ届出認可ヲ受クヘシ共ノ事故ノ止ミタルトキ亦同シ
- 前項ノ管理人ハ營業者ニ代リ其ノ責ニ任ス
- 第四條 左記各號ノ一ニ該當スル場合ハ三日以内ニ廳又ハ支廳ニ届出ヘシ
 - 一 廢業休業
 - 二 第一條第一號及第三號ノ事項ノ異動
 - 三 死亡又ハ行方不明トナリタルトキ
- 前項第三號ノ場合ハ家族又ハ同居人、相續人若ハ遺產管理人ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第五條 營業者ハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ
 - 一 客ヲ誘引シ、客ノ需メナキ 飲食物ヲ供レ若ハ不當ノ代價ヲ請求シ又ハ強テ藝妓ノ招聘ヲ勸ムヘカラス
 - 二 客ニ面會ヲ求ムル者アルトキハ故ナク之ヲ隠蔽シ又ハ其ノ取次ヲ拒ムヘカラス
 - 三 藝妓酌婦ヲシテ外部ヨリ見透シ得ヘキ場所ニ於テ粉粧ヲ爲サシムヘカラス
 - 四 客ヲ宿泊セシムヘカラス
 - 五 藝妓酌婦若ハ遊藝稼業人ヲ宿泊セシムヘカラス 但シ稼業ノ場所トシテ寄寓スル者ハ此ノ限ニ在ラス
 - 六 藝妓酌婦稼業ノ許可證ナキ婦女ヲシテ藝妓酌婦ニ類スル所業ヲ爲サシムヘカラス

- 七 飲食店ニ於テハ藝妓、酌婦若ハ遊藝稼業人ヲ客席ニ侍ラシメ若ハ寄寓セシムヘカラス
- 八 警察官吏ノ承認ヲ受クルニ非サレハ遊興費ノ擔保又ハ支拂ノ爲客ノ著衣共ノ他ノ所持品ヲ領置スヘカラス
- 九 營業時間中門戸ヲ閉鎖スヘカラス
- 十 婦女ヲ宿泊セシムタルトキハ其ノ本居(本籍)地寄留地職業姓名生年月日及宿泊ノ事由ヲ記シ廳支廳又ハ警察官吏派出所ニ届出ヘシ
- 十一 客ノ死傷中毒又ハ携帶品ノ紛失、盜難等アリタルトキハ他客ノ出入ヲ止メ即時警察官吏ニ申告スヘシ傳染病ノ疑アリタルトキ亦同シ
- 十二 身分不相應ノ金錢ヲ消費シ又ハ舉動其ノ他ニ於テ不審ト認ムル客アリタルトキハ直ニ警察官吏ニ申告スヘシ
- 十三 客室及料理場ハ常ニ清潔ニ掃除シ且ツ空氣ノ流通ヲ十分ナラシムヘシ
- 十四 飲食店ニ在リテハ飲食品ノ定價表ヲ製シ客ノ賄易キ場所ニ之ヲ掲示シ客ノ要求アリタルトキハ之ヲ呈示スヘシ
- 十五 廊下其ノ他適當ノ場所ニ唾壺ヲ置キ毎日清潔ニ掃除シ消毒劑ヲ投入シ便所、浴室ハ常ニ清潔ニ掃除シ便所ニハ防臭劑ヲ撒布スヘシ
- 十六 飲食物ニハ覆蓋ヲ爲シ塵芥共ノ他蟲類ノ附著セサル様設備スヘシ
- 十七 以上各號ノ外特ニ命セラレタル事項
- 第六條 營業者ニ於テ從業者ヲ雇入レタルトキハ左ノ事項ヲ具シ三日以内ニ廳又ハ支廳ニ届出ヘシ
 - 一 從業者ノ姓名生年月日、本居(本籍)地寄留地或從前ノ住所及職業
 - 二 從事セシムル業務
- 從業者ノ死亡、解雇又ハ所在不明トナリタルトキハ三日以内ニ廳又ハ支廳ニ届出ヘシ 家族及同居人ヲ從業者トシテ使用スルトキハ前二項ヲ準用ス

第七條 營業者ハ結核癩、微毒又ハ傳染性皮膚病ニ罹リタル者ヲシテ飲食物若ハ食器ノ取扱ヲ爲サシメ又ハ其ノ取扱ヲ爲スヘキ場所ニ立入ラシムルコトヲ得ス
 營業者ニシテ前項ノ疾病ニ罹リタルトキハ飲食物若ハ食器ノ取扱ヲ爲シ又ハ其ノ取扱ヲ爲スヘキ場所ニ立入ルコトヲ得ス
 第八條 廳長ハ公衆衛生又ハ風俗上必要ト認ムルトキハ營業者ニ對シ其ノ指定スル醫師ノ作成シタル本人又ハ從業者ノ健康診斷書ノ提出又ハ隔離若ハ從業者ノ解雇ヲ命スルコトヲ得
 第九條 營業者ハ門戸ノ入口ニ姓名、住所、營業名及屋號ヲ明記シタル看板及標燈ヲ掲クヘシ
 第十條 營業取締上視察ノ必要アリト認ムルトキハ警察官吏ハ隨時營業場所ニ臨檢シ又ハ營業用帳簿ヲ檢査スルコトヲ得
 第十一條 營業者ハ雇人周旋業又ハ同一地域内ニ於テ宿屋營業ヲ兼ムルコトヲ得ス
 第十二條 廳長ハ營業者ニシテ公安ヲ害シ若ハ風俗ヲ紊スノ虞アリ又ハ他人ニ名義ヲ貸スノ事實アリト認ムルトキハ營業ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スルコトヲ得
 停止處分中又ハ取消處分ヲ受ケタル者ニシテ二年以上ヲ經過セサルモノハ本令ノ營業ヲ出願シ又ハ本令第三條ノ管理人タルコトヲ得ス但シ情狀ニ依リ取消處分ヲ受ケタル者ニ對シ廳長ハ特ニ之ヲ許可スルコトヲ得
 第十三條 營業上ニ關シテハ家族、同居人及雇人ノ所爲ト雖營業者其ノ責ニ任ス
 第十四條 廳長ハ必要アリト認ムルトキハ營業者ヲシテ組合ヲ組織セシメ又ハ其ノ解散ヲ命スルコトヲ得
 第十五條 第一條乃至第三條、第六條、第七條及本令ニ基キ命令ニ違反シ又ハ第十條ノ檢査ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス
 第十六條 廳長ハ土地ノ狀況ニ依リ臺灣總督ノ認可ヲ得テ本令ノ一部ヲ適用セサルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 定住營業者ニ非サル飲食物行商、露店、床店ニハ本令ヲ適用セス
 從來ノ營業者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス但シ第三條ノ管理人又ハ第六條ノ從業者ノ雇入手續ヲ爲ササルモノハ本令施行後三十日內ニ廳又ハ支廳ニ届出ヘシ
 ○臺灣總督府令第九十號(官報十二月二日)
 明治四十四年八月府令第五十八號臺灣度量衡規則施行規則附則第二項中「明治四十四年十二月末日迄」ヲ「明治四十五年十二月末日迄」ニ改ム
 明治四十四年十一月二十二日 臺灣總督 伯爵佐久間左馬太
 ○臺灣總督府令第九十一號(官報十二月二日)
 明治三十二年五月府令第三十六號臺灣獸疫豫防規則施行細則中左ノ通改正ス
 臺灣總督 伯爵佐久間左馬太
 第六條第七條第八條第十六條及第十九條中警察官警察醫又ハ檢査委員ヲ當該職員ニ改ム
 第十條 本島外ノ有病地ヨリ又ハ之ヲ經テ獸類、其ノ屍體及皮骨類其ノ他獸疫傳播ノ虞アル物品ヲ輸入又ハ移入スル船舶ハ獸疫ノ檢査ヲ受クヘシ
 檢査ヲ行フ獸疫ノ種類左ノ如シ
 一 牛疫
 二 炭疽
 三 傳染性胸膜肺炎
 四 流行性癆口瘡
 五 豕虎列刺
 六 豕羅斯疫
 七 畜牛結核病

第十條ノ二 檢疫ハ必要ノ港口ニ於テ之ヲ行フ
 第十一條 當該職員ハ第十條ノ船舶ニ臨檢シ檢疫ヲ行ヒ左ノ事項ヲ船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ニ尋問シ別記第一號様式ノ尋問書ニ署名セシムヘシ
 一 船籍、船舶ノ種類及名稱
 二 發航ノ地名及年月日
 三 寄港ノ地名及年月日
 四 獸類ノ種類及頭數並其ノ皮骨類ノ種類、數量及性状
 五 獸類其ノ皮骨類搭載ノ地名及年月日
 六 獸類其ノ皮骨類ノ仕向地名
 七 獸疫發生シタル船舶又ハ獸疫流行地ヨリ來リタル船舶ト交通ノ有無
 八 他港ニ於テ檢疫ヲ受ケタルコトノ有無
 九 航海中又ハ寄港中發病又ハ斃死シタル獸類ノ頭數及其ノ症狀
 十 現時病獸及其ノ屍體ノ有無
 第十一條ノ二 當該職員ニ於テ必要アリト認ムルトキハ航海日誌ノ檢閱ヲ爲スコトヲ得
 第十二條 當該職員船舶ニ臨檢ノ際獸疫ニ罹リ若ハ其ノ疑アリト認ムル獸類ヲ發見シタルトキハ直ニ船舶ヲ停船場ニ移シ搭載獸ノ全部又ハ傳染ヲ防クニ必要ト認ムル一部ノ陸揚ヲ命シ健獸ト病獸トヲ區別シテ隔離所ニ留置スヘシ但シ時宜ニ依リ船中ニ之ヲ留置セシムルコトヲ得
 第十二條ノ二 當該職員獸疫傳播ノ虞アリト認ムルトキハ當該檢疫港ニ陸揚ヲ爲ササル獸類其ノ屍體及皮骨類其ノ他ノ物品ニ付テモ亦檢疫ヲ行フコトヲ得

第十三條 隔離又ハ船中ニ留置シタル健獸ニテ十日ヲ經テ發病若ハ其ノ疑ナキトキハ之ヲ解放スヘシ
 前項ノ期間内新ニ發病若ハ其ノ疑アル獸類アルトキハ翌日ヨリ起算シ更ニ十日以内ニ於テ必要ノ期間之ヲ留置スヘシ爾後ニ於ケル經過ニ付テモ亦同シ
 前二項ノ獸類ニ付治療、投藥ヲ請フ者アルトキハ當該職員之ヲ許可スルコトアルヘシ
 第十三條ノ二 皮骨類其ノ他獸疫傳播ノ虞アル物品ハ當該職員ノ指定シタル場所ニ送致スヘシ
 第十四條 第十二條ノ獸類其ノ屍體及前條ノ皮骨類其ノ他ノ物品ハ當該職員ノ許可ヲ受クルニ非サルヘシ之ヲ他ニ移轉スルコトヲ得ス
 第十四條ノ二 當該職員檢疫ヲ終リタルトキハ船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ニ別記第二號様式ノ證明書ヲ交付スヘシ
 第十四條ノ三 第十條ノ船舶ハ檢疫及消毒ヲ終ル迄檢疫信號ヲ掲グヘシ
 檢疫信號ハ晝間ハ船舶ノ前檣頭ニ別記第三號様式ノ標旗ヲ掲ケ夜間ハ船舶ノ前檣頭ニ紅色、球燈一箇白色、球燈二箇ヲ上下ニ連掲スヘシ
 第十四條ノ四 基隆及淡水ニ於ケル檢疫ハ別記第四號様式ニ依リ前月中ノ成績ヲ毎月十日迄ニ臺灣總督ニ報告スヘシ
 第二十四條 第六條、第十四條、第十四條ノ三、第十七條、第十八條、第十九條及第二十一條ニ違反シ又ハ第十二條、第十三條ノ二ノ命令ニ從ハス又ハ第十一條ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ第十一條ノ二ノ檢閱ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス
 附則
 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式 (別記)

尋問書

一	船種	五
二	船舶ノ種類	寸
三	船舶ノ名稱	
四	發航ノ地名及年月日	
五	寄港ノ地名及年月日	
六	獸類ノ種類及頭數並其ノ皮膚類ノ種類及性状	
七	獸類其ノ皮膚類ヲ載ルノ地名及年月日	
八	獸類其ノ皮膚類ノ仕向地名	
九	獸類發生タル船舶又ハ獸類流行地ヨリ來リタル船舶ト交通ノ有無	
十	他港ニ於テ検査ヲ受ケタル船舶ノ有無	
十一	航海中發病又ハ死亡シタル獸類ノ頭數及其ノ症狀	
十二	現時病獸及屍體ノ有無	

第二號樣式

證明書

輸入(移入)船舶名	
品目	
數	
量	
一牛	
二馬	
三羊	
四豕	
五其ノ他ノ獸類	
六皮	
七骨	
八其ノ他ノ物品	

右ノ通相違無之候也

年月日

何船長

何

某印

裏面ニハ表面ノ事項ノ實際ヲ記載スヘシ

五寸

○臺灣總督府令第九十二號 (官報十二月六日)
船舶積量互認ノ件ニ關シ帝國政府ト露西亞國政府トノ間ニ取極ヲ爲シタルニ依リ其ノ條規ヲ左ノ通相定ム

明治四十四年十一月二十六日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

第一條 露西亞國政府ニ於テ千九百年三月二日發布船舶積量測度規則ニ依リ交付シタル測度證書ヲ受有スル露西亞國ノ船舶ハ臺灣諸港ニ於テ其ノ積量ヲ測度スルコトナク其ノ證書ニ記載スル登簿噸數ヲ帝國船舶ノ登簿噸數ト同一ナリト看做ス

第二條

前條ノ船舶ニシテ特大ナル機關室ヲ有スル汽船ニ在リテハ其ノ所有者又ハ船長ヨリ申請スルトキハ臺灣ノ船舶積量測度規則ニ定ムル割合ニ從ヒ機關室ニ對スル噸數ヲ控除シテ其ノ登簿噸數ヲ算定ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○臺灣總督府令第九十三號 (官報十二月六日)

臺灣島内ニ於テ電信爲替ニ依リ高額ノ金額ヲ送付セムトスル者ニシテ豫メ臺灣總督ノ認可ヲ受ケルトキハ電信爲替證書一枚ノ金額制限ヲ五千圓迄ニ高ムルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル爲替料ハ爲替金百圓ニ對シ金七十五錢百圓以上ハ爲替金十圓迄ヲ増ス毎ニ金五錢ヲ加算シテ徴收ス

附則

本令ハ明治四十四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十一年十月府令第六十三號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ認可ヲ受ケタル者ハ本令ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做シ其ノ效力期間ハ本令施行ノ日ヨリ起算ス

明治四十四年十一月二十六日

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

〔参照〕

明治四十一年十月府令第六十三號 臺灣總督府令第六十三號ハ官廳又ハ國庫金若ハ地方税金ヲ取扱フ銀行業者臺灣島内ニ於テ電信爲替ニ依リ高額ノ金額送付方ノ件ナリ

○臺灣總督府令第九十四號 (官報十二月六日)

明治三十八年五月府令第三十四號臺灣總督府郵便切手類賣下買捌規則中左ノ通改正ス

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

明治四十四年十一月二十八日

第二條 郵便切手類ハ左記ノ場所ニ於テ之ヲ賣捌ク

一 郵便局及其ノ支局、出張所

二 必要ノ場所ニ特ニ設置スル郵便切手賣捌所

第五條中乃至第四號ヲ削リ「第五號」ヲ「第二號」ニ改ム

第七條 三等郵便局ニ於テ賣捌クヘキ郵便切手類ハ郵便集配事務ヲ取扱フ局ニ在リテハ一、二等郵便局ヨリ郵便集配事務ヲ取扱ハサル局ニ在リテハ其ノ地ノ郵便集配事務受持郵便局ヨリ買受クヘン

郵便切手賣捌所ニ於テ賣捌クヘキ郵便切手類ハ其ノ所轄郵便局ヨリ買受クヘン

本島内ニ船籍ヲ有スル船舶内ノ郵便切手賣捌所ニ在リテハ其ノ航海起點地若ハ寄港地ノ郵便局ヨリ買下ヲ受クルコトヲ得

第九條 三等郵便局及郵便切手賣捌所ニ於テ賣捌クヘキ郵便切手類ハ其ノ買受高ニ對シ左ノ割引ヲ以テ賣渡スヘン

- 一 郵便集配事務ヲ取扱フ三等郵便局ニ對シテハ定價千分ノ五十
- 二 郵便集配事務ヲ取扱ハサル三等郵便局及郵便切手賣捌所ニ對シテハ定價千分ノ三十五
- 第十條 郵便切手類ハ左記ノ場合ニ限リ一、二等郵便局ニ於テ買戻又ハ交換スルコトアルヘシ但シ其ノ買戻ニ對シテハ前條ノ割引相當額ヲ控除スルモノトス
- 一 三等郵便局並郵便切手賣捌所ノ廢止又ハ三等郵便局長ノ轉免若ハ死亡ノ場合ニ於テ殘存セルモノ
- 二 三等郵便局並郵便切手賣捌所ノ賣下ヲ受ケタルモノニシテ天災事變其ノ他避クヘカフサル事故ニ起因シ汚損毀損シタルモノ
- 第十一條中「第五號」ヲ「第二號」ニ改ム
- 第十四條中「郵便受取所取扱人」ヲ削ル
- 第十五條中「郵便受取所取扱人」ヲ「郵便集配事務ヲ取扱ハサル三等郵便局長」ニ改ム
- 第十六條及第二十五條中「郵便受取所取扱人」並「ヲ削ル
- 第二十六條 郵便集配事務ヲ取扱ハサル三等郵便局長並郵便切手賣捌人ニ於テ郵便困ノ位置ヲ變更スルノ必要アリト認メタルトキハ其ノ地ノ郵便集配受持郵便局ニ之ヲ申請スヘシ
- 第二十七條 削除

附則
本令ハ明治四十五年一月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

- 臺灣總督府令第三十四號臺灣總督府郵便切手類賣下賣捌規則(明治三十八年六月九日官報)抄録
- 第二條 郵便切手類ノ賣捌ハ左記ノ場所ニ限ル
- 一 郵便及電信局
- 二 郵便及電信支局

- 三 郵便及電信出張所
- 四 郵便及電信受取所
- 五 郵便切手賣捌所
- 第五條 第一項及第二項
- 第二條第一號乃至第四號ノ場所ニ於ケル郵便切手類ノ賣捌時間ハ其ノ郵便物受付又ハ電報取扱ノ時間ニ依ル但シ時限ヲ定メテ取扱リ得スヘキ郵便物又ハ電報ニ對シテハ本項ノ時限ニ拘ラス之ニ要スル郵便切手類ヲ賣捌クヘシ
- 第二條第五號ノ場所ニ在テハ左ノ時限中郵便切手類ノ賣捌ヲ拒絕スルコトヲ得ス
- 第七條 三等郵便局ニ於テ賣捌クヘキ郵便切手類ハ一、二等郵便局ヨリ郵便受取所並郵便切手賣捌所ニ於テ賣捌クヘキ郵便切手類ハ其ノ所轄郵便局ヨリ賣下ヲ受ケヘシ但シ所在地ノ關係上所轄郵便局ニ於テ賣下ヲ受ケタルヲ不悞トスル郵便受取所又ハ郵便切手賣捌所ニ在テハ所轄郵便局ノ承認ヲ受ケ最寄郵便局又ハ郵便出張所ヨリ賣下ヲ受ケタルコトヲ得
- 本島内ニ船籍ヲ有スル船舶内ノ郵便切手賣捌所ニ在テハ其ノ航海起點地若ハ寄港地ノ郵便局ヨリ賣下ヲ受ケタルコトヲ得
- 第九條 三等郵便局郵便受取所並郵便切手賣捌所ニ於テ賣捌クヘキ郵便切手類ハ其ノ買受高ノ定價ニ對シテ左ノ割引ヲ以テ賣下ヘシ
- 一 三等郵便局ニ對シテハ定價千分ノ五十
- 二 郵便受取所並郵便切手賣捌所ニ對シテハ定價千分ノ三十五
- 第十條 郵便切手類ハ左記ノ場合ニ限リ一、二等郵便電信局ニ於テ買戻又ハ交換スルコトアルヘシ但シ其ノ買戻ニ對シテハ前條ノ割引相當額ヲ控除スルモノトス
- 一 三等郵便局郵便受取所並郵便切手賣捌所ノ廢止又ハ三等郵便局長並郵便受取所取扱人ノ轉免若ハ死亡ノ場合ニ於テ殘存セルモノ
- 二 三等郵便局郵便受取所並郵便切手賣捌所ノ賣下ヲ受ケタルモノニシテ天災事變其ノ他避クヘカフサル事故ニ起因シ汚損毀損シタルモノ
- 第十四條 三等郵便局長並郵便受取所取扱人並郵便切手賣捌人ニ於テ第七條ニ依リ郵便切手類ノ賣下ヲ受ケントスルトキハ郵便切手類賣下請求書(郵務省令第九十四號)ヲ代金ト共ニ提出スヘシ
- 第十五條 第一項
郵便受取所取扱人並郵便切手賣捌人ニ於テ豫メ賣下ノ承認ヲ得タルトキハ當該局取扱人ニ郵便切手類ノ買受ヲ依託スルコトヲ得
- 第十六條 郵便受取所取扱人並郵便切手賣捌人ハ其ノ印鑑ヲ所轄郵便局ニ届出ヘシ改印又ハ紛失ノトキ亦同シ
- 第二十五條 第一項
郵便受取所取扱人並郵便切手賣捌人ハ其ノ近傍ニ設置シアル郵便局ヲ保護スヘシ

第二十六條 郵便受取所取扱人並郵便切手賣捌人ニ於テ郵便函ノ位置ヲ變更スルノ必要アリト認メタルトキハ所轄郵便局ニ申請スヘシ

第二十七條 此ノ規則ニ依リ三等郵便局區内ノ郵便受取所並郵便切手賣捌所ト一、二等郵便局間ニ受授スル文書ハ總テ其ノ所轄三等郵便局ヲ經由スヘシ

○臺灣總督府令第九十五號(官報十二月六日)
明治三十八年十月府令第七十七號第二項ヲ左ノ通改正ス

臺灣總督 伯耆佐久間左馬太

明治四十四年十一月二十八日

三等郵便局並郵便切手賣捌所ニ於テ前項ニ依リ買受ケタル輸葉書ニシテ買受ノ日ヨリ三箇月ヲ過クルモ賣捌ヲ了セサルモノアルトキハ定價ニ對シ郵便集配事務ヲ取扱フ三等郵便局ニ在リテハ千分ノ五十、郵便集配事務ヲ取扱ハサル三等郵便局及郵便切手賣捌所ニ在リテハ千分ノ三十ノ割引ヲ以テ一、二等郵便局へ同業書中他ノ種類ノモノ又ハ郵便切手類トノ交換ヲ請求スルコトヲ得

附則

本令ハ明治四十五年一月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

臺灣總督府令第七十七號(明治三十八年十月二十五日)
自今臺灣總督府及通省ニ於テ發行スル輸葉書ノ種類、賣捌價格及發賣期日等ハ其ノ郵便局所前ニ指示セシム他シ其ノ賣捌方ハ明治三十八年府令第三十四號臺灣總督府郵便切手類賣下交換規則ヲ準用ス

三等郵便局、郵便受取所並郵便切手賣捌所ニ於テ前項ニ依リ買受ケタル輸葉書ニシテ買受ノ日ヨリ三箇月ヲ過クルモ賣捌ヲ了セサルモノアルトキハ定價ニ對シ三等郵便局ニ在リテハ千分ノ八十ノ割引ヲ以テ所轄一、二等郵便局又ハ發售一、二等郵便局へ郵便受取所並郵便切手賣捌所ニ在リテハ千分ノ六十ノ割引ヲ以テ所轄郵便局へ同業書中他ノ種類ノモノ又ハ郵便切手類トノ交換ヲ請求スルコトヲ得

○臺灣總督府令第九十六號(官報十二月六日)
明治三十四年四月府令第二十號官幣大社臺灣神社神職俸給規則中別表ヲ左ノ通改ム

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セラレサル者ハ現ニ受ケル俸給額ヲ支給セラルルモノトス

明治四十四年十一月二十九日

臺灣總督 伯耆佐久間左馬太

司官年俸		主典月俸						
上級俸	下級俸	一級俸	二級俸	三級俸	四級俸	五級俸	六級俸	七級俸
千二百圓	千圓	七十五圓	六十五圓	六十五圓	五十五圓	五十五圓	四十五圓	四十五圓
千圓	七十五圓	四十五圓	四十五圓	三十五圓	三十五圓	三十五圓	二十五圓	二十五圓
千圓	七十五圓	四十五圓	四十五圓	三十五圓	三十五圓	三十五圓	二十五圓	二十五圓

○臺灣總督府令第九十七號 (官報十二月二十九日)

明治三十六年十二月二十九日

明治四十四年十二月十六日

臺灣總督 伯耆佐久間左馬太

第三條中在鄉軍人ト稱スルハノ下ニ待命ヲ加フ

第六條 削除

第十條第二項中前條ヲ更ニ前項ニ改ム

別記様式中下士初任年月日及現役(召集)最終職名ノ各項ヲ左ノ如ク改ム

下士初任年月日 何年何月何日

現役(召集)最終部隊 步兵第何聯隊又ハ工兵第何大隊等

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

臺灣總督府令第八十七號臺灣在鄉陸軍軍人戰時召集規程(明治三十七年一月十六日官報)抄録

第三條

第六條

第十條

前項ノ居住換地方共ノ支隊

○臺灣總督府令第九十八號 (官報十二月二十九日)

澎湖公園ハ澎湖廳長之ヲ管理ス

前項ノ管理ニ關シ必要ナル規定ハ臺灣總督ノ認可ヲ得テ廳長之ヲ定ムルコトヲ得

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年十二月二十日

臺灣總督 伯耆佐久間左馬太

○關東都督府令第三十一號 (官報十二月二十二日)

明治三十九年陸軍省令第十六號ニ依ル關東州南滿洲及其ノ附近ニ於ケル明治四十五年度徵兵身體検査ニ關スル件左ノ通定ム

明治四十四年十二月十五日

關東都督 子爵大島義昌

第一條 徵兵身體検査場左ノ如シ

旅順 步兵第二十二聯隊

鐵嶺 步兵第七十一聯隊

安東縣 獨立守備第四大隊第四中隊

遼陽 步兵第四十二聯隊

公主嶺 獨立守備第一大隊

第二條 徵兵身體検査員ハ第一條ニ指定シタル隊長ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 徵兵身體検査ヲ受ケムトスル者ハ徵兵身體検査受檢願書ニ左ノ書類ヲ添付シ明治四十

五年二月十日迄ニ前條ノ検査員ニ出願スヘシ

一 身分證明書 關東州ニ在リテハ民政署長鐵道附屬地ニ在リテハ警務署長其ノ他ニ在リテハ

二 寫 眞 最近ニ脱帽シタルモノモ若シ寫眞ヲ添付シ得サルトキハ民政署長警務署長

第四條 前條出願ヲ爲シタル者病氣其ノ他ノ事故ニ依リ検査ヲ受ケ難キトキ若ハ願書記載ノ事項

ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ當該検査員ニ届出ツヘシ

第五條 検査施行日割ハ検査員ヲシテ豫メ本人ニ通達セシム

第一樣式(用紙、半紙白紙)

徵兵身體檢查受檢願

私儀明治三十九年陸軍省令第十六號ニ依リ徵兵身體檢查相受度候同賃地檢査場ニ於テ受檢ノ義務計可相成度別紙身分證明書及寫真(人相書)相添此段奉願候也

本籍地 府(縣)郡(市)町(村)番地
現居地 府(縣)郡(市)町(村)番地
華(士)族(平民)月主(長)(二男)兄弟(職業)
氏 名

年月日 何所徵兵身體檢查員氏名殿

○關東都督府令第三十二號(官報明治四十五年一月四日)

明治四十一年九月府令第五十二號關東州裁判手数料令中左ノ通改正ス

明治四十四年十二月二十七日

第七條中第十條ノ下ニ「證人ニ關スル」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

關東都督府令第五十二號關東州裁判手数料令(明治四十一年九月二十八日)抄録
第七條 檢査ノ申立ヲ爲ストキハ關東州裁判費用令第九條及第十條ノ費用ヲ手数料トシテ納ムヘシ公證官更及執達吏ノ職務ヲ行フ者ノ所在地外ニ於テ其ノ職務ノ取扱ヲ求ムルトキ亦同シ

○關東都督府令第三十三號(官報明治四十五年一月四日)

明治四十一年九月府令第五十三號關東州裁判費用令中左ノ通改正ス

明治四十四年十二月二十七日

關東都督 子爵大島義昌

第十條第一項ヲ左ノ通改ム

當事者、證人、鑑定人及通譯ノ旅費ハ汽車賃一哩ニ付金六錢以内船賃一海里ニ付金六錢以内車馬賃一里ニ付金三十錢以内トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

關東都督府令第五十三號關東州裁判費用令(明治四十一年九月二十八日)抄録
第十條第一項

○關東都督府令第三十四號(官報明治四十五年一月十八日)

明治三十九年七月關東州民政署令第二十二號阿片販賣業及煙館業營業稅規則ハ之ヲ廢止ス

附則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十四年十二月二十九日

關東都督 子爵大島義昌

○關東都督府令第三十五號(官報明治四十五年一月十八日)

關東州船籍令左ノ通定ム

明治四十四年十二月三十日

關東都督 子爵大島義昌

關東州船籍令

第一條 左ノ船舶ヲ以テ日本船舶トス

一 官廳ノ所有ニ屬スル船舶

二 關東州ニ住所ヲ有スル日本臣民ノ所有ニ屬スル船舶

三 關東州ニ本店ヲ有スル會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ三分ノ二以上合資會社株式會社ニ在リテハ無限責任社員ノ三分ノ二以上株式會社ニ在リテハ役員ノ三分ノ二以上カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

四 關東州ニ主タル事務所ヲ有スル法人ニシテ其ノ代表者ノ三分ノ二以上カ日本臣民ナルモノノ所有ニ屬スル船舶

五 關東州ニ住所ヲ有セサル日本臣民又ハ内地樺太臺灣朝鮮ニ本店若ハ主タル事務所ヲ有スル第三號ニ記載セル會社若ハ前號ニ記載セル法人ノ所有ニ屬スル船舶ト雖内地樺太臺灣朝鮮ニ於テ船籍港ヲ定メスシテ關東州沿岸ヲ航行シ又ハ關東州ヲ起點トシテ内地樺太臺灣朝鮮若ハ外國ニ航行スルモノ

第二條 日本船舶ニ非サレハ日本國旗ヲ掲クルコトヲ得ス

第三條 船舶法第一條ニ依リ日本船舶タルモノ及本令ニ依リ日本船舶タルモノニ非サレハ關東州不開港場ニ寄港シ又ハ關東州各港ノ間ニ於テ物品又ハ旅客ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但レ條約若ハ法令ニ別段ノ定メアルトキ海難若ハ捕獲ヲ避ケムトスルトキ又ハ關東都府ノ特許ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條 日本船舶ノ所有者ハ大連又ハ旅順ニ船籍港ヲ定メ海務局ニ船舶ノ積量ノ測度ヲ申請スルコトヲ要ス但シ内地ニ船籍港ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條 日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後海務局ニ船舶ノ登録ヲ申請スルコトヲ要ス海務局ハ其ノ登録ヲ爲シタルトキハ船舶國籍證書ヲ交付スルコトヲ要ス

第六條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ其ノ船籍港ニ到着スル迄州内ニ在リテハ海務局ニ内地樺太臺灣朝鮮ニ在リテハ該船舶所在地ノ地方官廳ニ外國ニ在リテハ該船舶所在地若ハ其ノ近傍駐在帝國領事館ニ假船舶國籍證書ノ交付ヲ申請シ船舶國籍證書ニ代用スルコトヲ得

假船舶國籍證書ノ效力ハ海務局ヨリ交付シタルトキハ三箇月地方官廳ヨリ交付シタルトキハ六箇月領事館ヨリ交付シタルトキハ一箇年ヲ以テ限トス但レ引續キ二度以上假船舶國籍證書ノ交付ヲ受ケタル場合ニハ初度ノ假船舶國籍證書ニ記載シタル日附ヨリ起算シ本文ノ期限ヲ經過シタルトキハ其ノ效力ヲ失フ

船舶カ船籍港ニ到達シタルトキハ假船舶國籍證書ノ有效期間滿了前ト雖其ノ效力ヲ失フ

第七條 日本船舶ハ日本ノ國旗ヲ掲ケ且其ノ名稱船籍港番號積量喫水ノ尺度其ノ他ノ事項ヲ標示スルコトヲ要ス

第八條 日本船舶ハ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サレハ日本國旗ヲ掲ケ又ハ之ヲ航行セシムルコトヲ得ス

第九條 日本船舶ノ名稱ハ海務局ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條 船舶所有者カ其ノ船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其ノ積量ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ遲滞ナク海務局ニ其ノ船舶ノ積量ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス

第十一條 登録シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ遲滞ナク其ノ變更ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其ノ書換ヲ申請スルコトヲ要ス

第十三條 船舶國籍證書ヲ滅失シ又ハ毀損シタルトキハ遲滞ナク其ノ再交付若ハ書換ヲ申請スルコトヲ要ス

第十四條 船籍港外ニ於テ前二條ノ事實ヲ生シタルトキハ第六條ニ依リ假船舶國籍證書ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

第十五條 前三條ノ規定ハ假船船籍證書ニ之ヲ準用ス
 第十六條 船舶カ滅失若ハ沈没シタルトキ解撤セラレタルトキ又ハ船籍ヲ喪失シ若ハ第十七條ニ掲グル船舶トナリタルトキハ運滞ナク抹消ヲ請ヒ且船船籍證書ヲ返還スルコトヲ要ス船舶ノ存否カ六箇月分明ナラサルトキ亦同シ
 前項ノ場合ニ於テ船舶所有者カ抹消手續ヲ爲ササルトキハ海務局ハ二箇月内ニ之ヲ爲スヘキコトヲ催告シ尙共ノ手續ヲ爲ササルトキハ職權ヲ以テ抹消ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス
 第十七條 前十三條ノ規定ハ總噸數二十噸未満又ハ積石數二百石未満ノ船舶及遊舟共ノ他機櫃ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ機櫃ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セス
 前項ニ掲グル船舶ノ船籍及其ノ積量ノ測定ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム
 第十八條 本令ノ施行ニ關シテハ本令共ノ他命令ヲ以テ特ニ定ムルモノヲ除クノ外船舶法施行細則ニ依ル
 第十九條 海務局ニ於テ申請人ニ交付スヘキ書類左ノ如シ
 一 船舶件名書ノ謄本
 二 假船船籍證書
 三 假船船籍證書
 前項各書類ノ書式ハ別記ニ依ル
 第二十條 船舶積量ノ測定ニ關シテハ船舶積量測定規則 船舶積量測定方法及汽船公稱馬力算定方法ニ依ル
 第二十一條 日本國旗ヲ掲グルコトヲ得サル船舶ニシテ之ヲ掲ケタルトキハ第八條ノ場合ヲ除クノ外船長ヲ五十圓以上二百圓以下ノ罰金又ハ一箇年以下ノ懲役ニ處ス第三條ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ日本船船籍ニシテ國籍ヲ詐ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ニ非サル旗章ヲ掲ケタルトキ亦同シ

第二十二條 第七條ノ規定ニ從ヒテ日本ノ國旗ヲ掲ケサルトキ又ハ第八條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十三條 第七條ニ定ムル事項ヲ船舶ニ標示セサルトキ又ハ第九條乃至第十三條第十五條若ハ第十六條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十四條 本令ノ規定ニ依リ船舶船籍證書又ハ假船船籍證書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ其ノ義務ヲ怠リタルトキハ船舶所有者ヲ科料ニ處ス
 第二十五條 本令ノ罰則中船長ニ適用スヘキモノハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者ニモ之ヲ適用シ船舶所有者ニ適用スヘキモノハ船舶管理人ニモ之ヲ適用ス
 第二十六條 本令ノ罰則ハ船舶所有者カ未成年者若ハ禁治產者ナルトキハ之ヲ共ノ法定代理人ニ適用シ會社其ノ他ノ法人ニ在リテハ其ノ代表者ニ之ヲ適用ス但シ船舶管理ニ關シ未成年者カ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
 第二十七條 本令ハ關東州水産組合ノ所有ニ屬スル船舶ニ之ヲ適用ス
 附則
 本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
 從來ノ船舶ニシテ本令ノ適用ヲ受クヘキモノハ本令施行ノ日ヨリ三箇月内ニ本令ニ依リ其ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス
 (別記)

<p>船舶件名書</p> <p>代船何丸</p> <p>一 甲板ノ府數及種類</p>	<p>何層(實積又ハ假)</p> <p>積船(甲板)</p>
--	--------------------------------

船籍證書

船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長	船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面マテノ幅	船體最廣部ニ於テ其ノ上面ヨリ航ノ上面マテノ深	積石數
前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス			
明治 年 月 日			
關東都督府海務局 印			

(輪廓縮繪)

甲 汽船ニ用井ル分

整一尺一寸五分横一尺

假

種類	船名	船籍港	製造地	造船者
汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種
汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種
汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種
汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種
汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種
汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種
汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種
汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種
汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種	汽船ノ種

船籍證書

船籍證書

進水ノ年月日	甲板ノ數	外板ノ材料	船骨ノ材料	橋ノ數	網具ノ裝置	船首ノ形狀	船尾ノ形狀
噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數
噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數
噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數
噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數
噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數
噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數
噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數
噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數
噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數

關東都督府海務局 印

明治四十四年十二月 府令 關東都督府第三十五號 關東州船務令

(輪船籍録) 乙 帆船ニ用井ル分

一尺一寸五分横一尺

假船籍國籍證書									
種	船名	船籍港	製造地	造船者	進水年月日	船身長	船幅	吃水	噸數
帆船									
噸數	船身長	船幅	吃水	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數
噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數

船身長測定方法ニ依ル量測甲板下ノ長
船體最廣部ニ於テ内張板ノ内面ヨリ内面マテノ幅
船身長測定方法ニ依ル量測甲板下ノ長ノ中央ニ於
テ該甲板ノ下面ヨリ船底内張板ノ上面マテノ深

者有共ハ又者有所

噸數
噸數
噸數
噸數
噸數
噸數
噸數
噸數
噸數
噸數

假船籍國籍證書									
種	船名	船籍港	製造地	造船者	進水年月日	船身長	船幅	吃水	噸數
帆船									
噸數	船身長	船幅	吃水	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數
噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數	噸數

本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス此證書ハ來ル明治 年 月 日マテ
效力ヲ有スト雖モ其ノ以前ニ於テ船籍港ニ對シタルトキハ直ニ其ノ效力ヲ失
フ

明治 年 月 日

關東都督府海務局印

丙 石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船籍ニ用井ル分 一尺九寸横六寸

明治四十四年十二月 府令 關東都督府第三十五號 關東州船務令

籍 證 書

尺 度 及 積 量	有 者
船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底 水平ノ長	
船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面 マテノ幅	
腰當梁ノ中央ニ於テ其ノ上面ヨリ航ノ 上面マテノ深	
積石數	

本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス此ノ證書ハ來ル明治 年 月 日マテ
效力ヲ有スト雖モ其ノ以前ニ於テ船籍港ニ對シタルトキハ直ニ效力ヲ失フ

明治 年 月 日

關東都督府海務局 印

○關東都督府令第三十六號(官報明治四十五年一月十八日)
關東州船舶登記令左ノ通定ム

明治四十四年十二月三十日

關東都督 子爵大島義昌

關東州船舶登記令

第一條 船舶ノ登記ニ關シテハ本令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外船舶登記規則及船舶登記取
扱手續ニ依ル

第二條 所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ登記權利者カ會社共ノ他ノ法人ナルトキハ申請書ニ
其ノ本店又ハ主タル事務所ノ所在地及關東州船籍令第一條ニ掲ケタル社員、無限責任社員、取締
役若ハ代表者ノ氏名ヲ記載シ且之ヲ證スル登記ノ原本抄本又ハ登記簿證及社員、無限責任社員、
取締役又ハ代表者ノ三分ノ二以上カ日本人ナルコトヲ證スル民政署長ノ書面共ノ他之ヲ證スル
ニ足ルヘキ書面ヲ添附スヘシ

前項ノ規定ハ南滿洲鐵道株式會社カ所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ之ヲ適用セス
關東州水産組合カ所有權ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ組合長ヲ以テ登記名義人トス
附 則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○關東都督府令第三十七號(官報明治四十五年一月十八日)
關東州裁判手數料令中左ノ通改正ス

明治四十四年十二月三十日

關東都督 子爵大島義昌

第三十二條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

- 第三十二條ノ二 船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ
 - 一 法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得 千分ノ三
 - 二 第一號以外ノ家督相續又ハ遺產相續ニ因ル所有權ノ取得 千分ノ六
 - 三 遺言贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得 千分ノ二十
 - 四 第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得 千分ノ十五
 - 五 從來保有セル所有權ノ保存 千分ノ一
 - 六 賃借權ノ取得 千分ノ一
- 存續期間十年未滿

船舶價格	千分ノ一
存續期間十年以上	
船舶價格	千分ノ二
存續期間ノ定メナキモノ	
船舶價格	千分ノ一
但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過セタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ手数料ヲ計算ス	
七 質權抵當權ノ取得	
債權金額	千分ノ六
但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス	
八 競賣ノ申立	
債權金額	千分ノ六
但シ競賣ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス	
九 假差押假處分	
債權金額	千分ノ四
但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス	
十 差押	
債權金額	千分ノ六

但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス	
十一 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復	
船舶每一箇	金二十錢
十二 假登記	船舶每一箇 金二十錢
十三 附記登記	船舶每一箇 金十錢
但シ一件ニ付手数料金三十錢ヲ超ニルトキハ金三十錢トス	
十四 登記ノ更正、變更又ハ抹消	
船舶每一箇	金十錢
但シ一件ニ付手数料金三十錢ヲ超ニルトキハ金三十錢	
第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル	
第三十四條第一項第三號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ以下順次繰下ク	
四 船舶管理人ノ委任又ハ代理權ノ消滅	
每一件	金二圓
第三十六條中、不動産登記ノ下ニ「船舶登記簿ヲ加フ	
第三十七條ニ左ノ一項ヲ加フ	
船舶特別登記簿ニ船舶ニ關スル登記ナキコトノ證明ヲ請求スルトキ亦前項ニ同シ	
第三十八條中、不動産登記法第二十一條ノ下ニ「船舶登記規則第一條ヲ加フ	
第三十八條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ	
第三十八條ノ二 船舶登記規則第十條第一項ノ規定ニ依リ登記證書ノ交付ヲ請求スルトキハ手数料金五十錢ヲ納ムヘシ	

第四十一條中前五條ヲ前六條ニ改ム

附則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔参照〕

關東都督府令第五十二號關東州裁判手數料令(明治四十一年九月二十八日抄録)

第三十六條 不動產登記、法人若ハ夫婦財產契約登記又ハ商業登記ノ謄本又ハ抄本ノ交付ヲ請求スルトキハ其ノ用紙一枚ニ付手數料金十錢ヲ納ムヘシ但シ一枚ニ滿タサルモノ亦同シ

第三十七條 非訟事件手續法第百二十五條又ハ第百四十三條ノ規定ニ依リ登記事項ニ變更ナキコト又ハ改事項ノ登記ナキコトノ證明ヲ請求スルトキハ每一件手數料金十錢ヲ納ムヘシ

第三十八條 不動產登記法第二十一條ノ規定ニ依リ登記簿又ハ其ノ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スルトキハ手數料金十錢ヲ納ムヘシ

第四十一條 前五條ノ規定ハ官吏カ政府ノ利益ノ爲其ノ職務ヲ以テ請求ヲ爲ス場合ニハ之ヲ適用セス

○關東都督府令第三十八號(官報 明治四十五年一月十八日)

關東州船鑑札規則左ノ通定ム

明治四十四年十二月二十日

關東都督 子爵大島義昌

關東州船鑑札規則

第一條 關東州船籍令第一條ニ該當スル船舶ニシテ總噸數二十噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノモノハ左ニ掲クルモノヲ除クノ外大連又ハ旅順ニ船籍港ヲ定メ其ノ所有者ヨリ海務局ニ第一號書式ニ依リ甲種船鑑札ノ交付ヲ申請スヘシ

一 總噸數五噸未滿又ハ積石數五十石未滿ノ帆船

二 端舟其ノ他櫓楫ノヨリ以テ運轉シ又ハ主トシテ櫓楫ヲ以テ運轉スル舟

第二條 海務局ニ於テ甲種船鑑札交付ノ申請ヲ受ケタルトキハ積石ノ測定ヲ爲スヘシ
海務局ニ於テ積石測定ヲ爲シタルトキハ第二號書式ノ甲種船鑑札ヲ申請人ニ交付スヘシ

第三條 第一條各號ニ掲クル船舶ノ所有者ハ尺度ヲ記載セル第三號書式ニ依リ海務局ニ乙種船鑑札ノ交付ヲ申請スヘシ

第四條 海務局ニ於テ乙種船鑑札交付ノ申請ヲ受ケタルトキハ其ノ記載事項ヲ審査シ適當ナリト認メタルトキハ第四號書式ノ乙種船鑑札ヲ申請人ニ交付スヘシ

第五條 船鑑札ニ關シテハ本令ニ於テ定ムルモノヲ除クノ外船鑑札規則ニ依ル

第六條 本令ハ内地ニ船籍港ヲ定メタル船舶ニ之ヲ適用セス

第七條 本令ハ關東州水産組合ノ所有ニ屬スル船舶ニ之ヲ適用ス

附則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
從來ノ船舶ニシテ本令ノ適用ヲ受クヘキモノハ本令施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ本令ニ依ル船鑑札交付ノ申請ヲ爲スヘシ

第一號書式

甲種船鑑札交付申請書

- 一 船種船名 (汽船帆船) 何船何丸 (汽船帆船) 何船何丸
- 二 船籍港 (大連又ハ旅順ノ別)
- 三 進水年月 何年何月
- 四 尺度 (船體ノ最大ノ長幅深)
- 五 測定ヲ受ケタル場所 何港
- 六 申請ノ事由 (新造船外國船購入等)

右船舶ニ對シ甲種船鑑札交付相成度此ノ段申請候也

明治 年 月 日

關東都督府海務局御中

住所 所有者 氏 名 印

第二號書式

(厚五寸横三寸木質通直)

甲種船鑑札

第 號

住所

氏 名

汽船 丸 (發動機船ナルト)

明治 年 月 日

關東都督府海務局 印

表

船種

船長 (石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船種ニ在テハ記載スルコトヲ要セス)

總噸數 (石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船種ニ在テハ積石數)

登陸噸數

公稱馬力 (汽船ニ限ル)

進水年月

第三號書式

乙種船鑑札交付申請書

- 一 船種 (汽船、帆船、船名、船主名)
 - 二 船ノ長、何尺何寸
 - 三 申請ノ事由 (新造、外國船購入等)
- 右船種ニ對シ乙種船鑑札交付相成度此ノ段申請候也
- 明治 年 月 日

第四號書式

關東都督府海務局御中

住所 所有者 氏 名 印

(厚四寸横二寸五分木質通直)

乙種船鑑札

第 號

船ノ長

住所

氏 名

何船何丸

明治 年 月 日

關東都督府海務局 印

○關東都督府令第三十九號 (官報明治四十五年一月十八日) 關東州船鑑札規則ノ適用

明治四十四年十二月三十日

關東都督 子爵大島義昌

關東州船舶職員令

第一條 關東州ニ船籍ヲ定ムル日本船舶ノ職員ニ付テハ本令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外船舶職員法及船舶職員法施行細則ニ依ル但シ遞信大臣ノ職務ハ海技免狀ニ關スルモノヲ除クノ外關東都督之ヲ行フ

第二條 船舶職員法第一號表ニ掲クル航路ノ區域ハ關東州船舶検査規則第十一條乃至第十四條ノ規定ニ依ル

第三條 船舶職員法施行細則第七條第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ領事官ノ職務ハ海務局之ヲ行フ

第四條 本令ノ規定ニ相當スル船舶職員ヲ乘組マシメサルトキハ船舶所有者若シ船舶管理人又ハ借入人ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シテ船舶職員トナリ又ハ海技免狀ノ行使ノ假停止若シ差押中其ノ職務ヲ執リタル者又ハ海技免狀ヲ貸付シ之ヲ行使セシメタル者ノ罰亦前項ニ同シ

第五條 前條第一項ノ罰則ハ船舶所有者、船舶管理人又ハ借入人カ法人ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ船舶ノ管理ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ就テハ此ノ限ニ在ラス

第六條 本令ハ當分ノ内漁獵ニ專用スル船舶ニ之ヲ適用セス

第七條 本令ハ船舶法ニ依ル日本船舶ニシテ關東州ノ沿岸ヲ航行シ又ハ關東州ヲ起點トシ樺太臺灣朝鮮若ハ外國ニ航行スルモノニ之ヲ適用ス

附則
本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來ノ船舶ニシテ本令ノ適用ヲ受クヘキモノハ本令施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ本令ニ依リ船舶職員ヲ乘組マシムヘシ但シ特種ノ目的ニ專用スル船舶ニ付テハ六箇月迄猶豫スルコトヲ得

○關東都督府令第四十號（官報明治四十五年一月十八日）
關東州船舶職員懲戒令ノ通定

明治四十四年十二月三十日
關東都督 子爵大島義昌

關東州船舶職員懲戒令

第一條 關東州船舶職員令ニ依ル船舶職員ノ懲戒ニ關シテハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外海員懲戒法ニ依ル但シ同法第七條ノ場合ニ於テハ關東州裁判事務取扱令中刑事訴訟手續ニ關スル規定ニ依ル

第二條 懲戒ハ懲戒委員會ノ裁決ヲ以テ之ヲ行フ

第三條 懲戒ハ左ノ三種トス

- 一 職務執行ノ禁止
- 二 職務執行ノ停止
- 三 戒飭

第四條 職務執行ノ停止ハ三年以下トス

第五條 懲戒審理ノ爲海務局ニ懲戒委員會ヲ置キ其ノ職員ハ懲戒委員長、懲戒委員理事及書記トス

懲戒ノ審理ハ懲戒委員長、懲戒委員二人ノ列席合議ヲ以テ之ヲ行フ

懲戒委員長、懲戒委員及理事ハ關東都督府高等官中ヨリ書記ハ海務局判任官中ヨリ關東都督之ヲ命ス

第六條 民政署長、同支署長、海務局長又ハ警察官吏カ本令ニ依リ審理ニ附スヘキ事實アリタルコ

トヲ認知シタルトキハ直ニ其ノ實況ヲ詳記シ成ルヘク證據ヲ集取シ之ヲ理事ニ報告スヘレ

第七條 被審人逃走シ又ハ逃走ノ虞アルトキハ下調ノ命ヲ受ケタル懲戒委員又ハ懲戒委員會ハ假ニ職務執行ヲ停止スルモトヲ得

第八條 本令ニ依ル輔佐人ト稱スルハ甲種船長、機關長、辯護士又ハ大連港水先人ニシテ懲戒委員會ノ認許シタルモノヲ謂フ

第九條 本令ハ大連港水先規則第十六條ニ依ル水先人懲戒委員會ノ組織及懲戒ノ手續ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

○關東都督府令第四十一號(官報明治四十五年一月十八日)

關東州船燈信號器救命具取締規則左ノ通定ム

明治四十四年十二月三十日

關東都督 子爵大島義昌

關東州船燈信號器救命具取締規則

船燈信號器、救命具ノ取締及試驗檢定ニ關シテハ船燈信號器救命具取締規則及船燈信號器、救命具試驗檢定規程ニ依ル但シ遞信大臣ノ職務ハ關東都督之ヲ行フ

船燈信號器救命具取締規則ニ依リ檢印ヲ附シタル船燈信號器及救命具ハ本令ニ依リタルモノト看做ス

附則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

從來ノ船燈信號器救命具ニシテ船燈信號器救命具取締規則ニ依リ檢印ヲ附セサルモノハ本令施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ本令ニ依リ檢定ヲ受クヘシ

從來ノ製造人、販賣人又ハ購買人ハ本令施行ノ日ヨリ三箇月内ニ本令ニ依リ免許又ハ認可ヲ申請スヘシ

○關東都督府令第四十二號(官報明治四十五年一月十八日)

船泊檢査手數料規則中左ノ通改正ス

明治四十四年十二月三十日

關東都督 子爵大島義昌

「船泊檢査手數料規則」ヲ「船泊手數料規則」ニ改メ第三條ノ次ニ左ノ二條ヲ加ヘ以下順次繰下

第四條 船泊ノ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ムヘシ

一 新規登錄	每十噸	金五十錢
二 轉籍	每十噸	金二十錢
三 登錄ノ抹消	每十噸	金二十錢
四 登錄ノ變更	船泊每一箇	金三十錢

船泊ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス

積石數ノ計算ニ關シテハ第一條第二項ニ依ル

第五條 船鑑札ノ交付ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ依リ手數料ヲ納ムヘシ

一 甲種船鑑札ノ交付	一箇	金一圓
二 甲種船鑑札ノ書換又ハ再交付	一箇	金五十錢
三 乙種船鑑札ノ交付	一箇	金五十錢
四 乙種船鑑札ノ書換又ハ再交付	一箇	金二十五錢

第五條中「官廳ノ船泊カ檢査ヲ受クル場合」ヲ「官廳ノ船泊」ニ改ム

附則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

關東都督府令第十六號船積檢査手数料規則(明治四十四年七月二十五日)抄錄
第五條 本令ハ官廳ノ船舶ヲ檢査ヲ受クル場合ニ之ヲ適用セス

左記府令ハ明治四十四年法令全書第拾貳號ニ登錄スヘキモノナレトモ印刷後報告ニ係ルヲ以テ茲ニ追記ス

○臺灣總督府令第九十九號(官報 明治四十五年二月六日)

明治四十三年十月律令第七號臺灣林野調查規則ハ明治四十四年十二月二十九日ヨリ臺中廳ニ之ヲ施行ス

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

○臺灣總督府令第百號(官報 明治四十五年二月六日)

郵便振替貯金小切手拂込規則左ノ通相定ム

臺灣總督 伯爵佐久間左馬太

明治四十四年十二月二十九日

郵便振替貯金小切手拂込規則

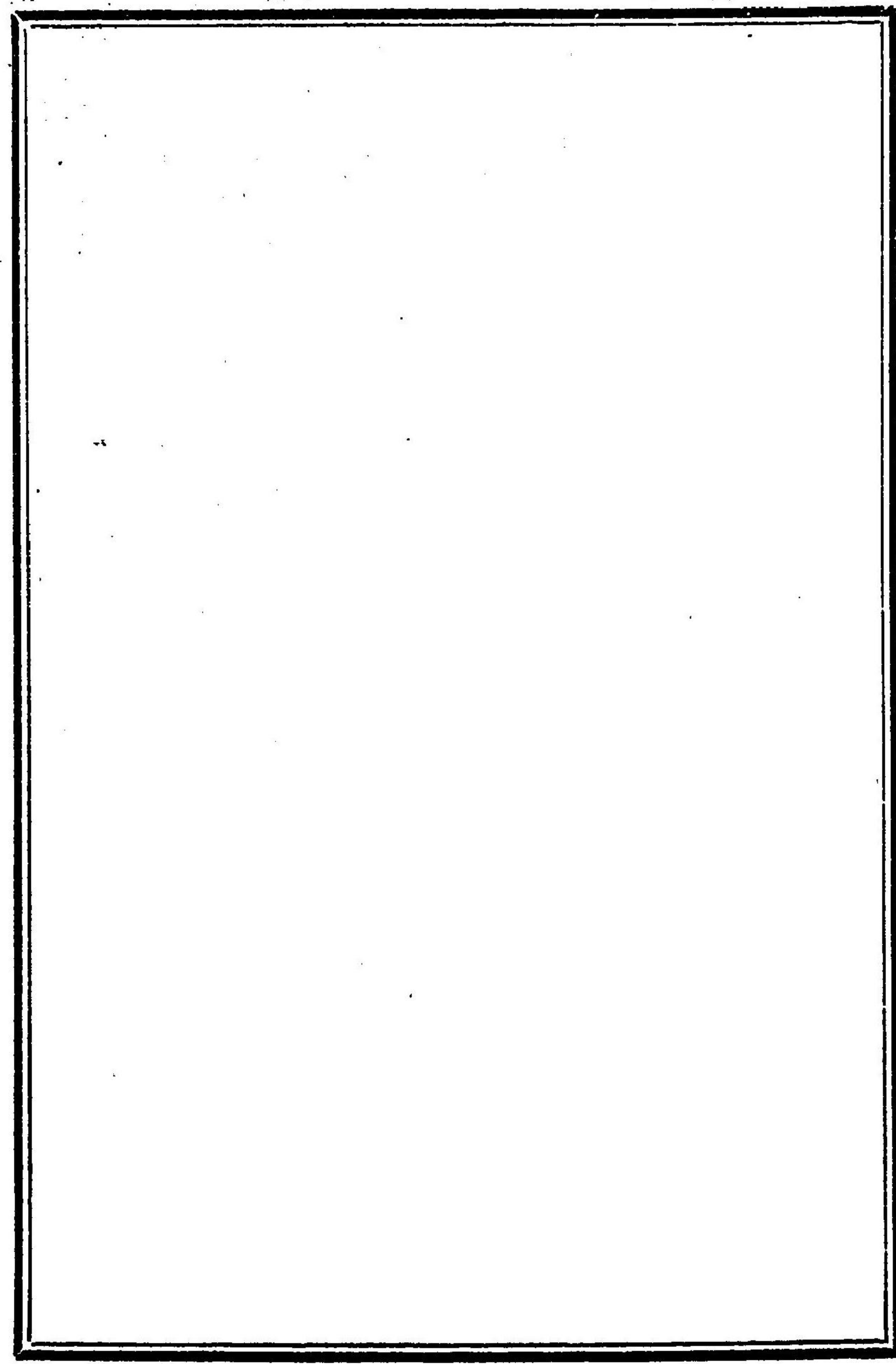
- 第一條 別ニ指定シタル銀行ヲ支拂人トシ且ツ其ノ銀行ノ所在地ヲ支拂地トスル持參人拂ノ小切手ニシテ其ノ振出ノ日附ヨリ起算シ五日以内ノモノハ支拂銀行ノ支拂保證アルモノニ限り之ヲ郵便振替貯金ノ拂込ニ充用スルコトヲ得
- 前項ノ小切手ハ特ニ指定シタル郵便局所ニ限り之カ受入ヲ爲ス
- 第二條 郵便局所ニ於テ受入レタル小切手ハ其ノ表面餘白ニ當該受入局所ノ日附印ヲ捺捺シ之ヲ支拂銀行又ハ臺灣銀行ヘ提出シテ現金ノ受入ヲ爲ス
- 第三條 小切手ノ拂込ニシテ現金受入不能ノ場合ハ加入者ノ口座ニ登記シタル後ト雖之ヲ不成立トス拂込不成立ノ場合ト雖既納料金ハ之ヲ還付セス
- 第四條 郵便振替貯金小切手拂込ニ關シテハ本令ニ規定シタルモノノ外郵便振替貯金規則ノ定ムル所ニ依ル

附則

本令ハ明治四十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

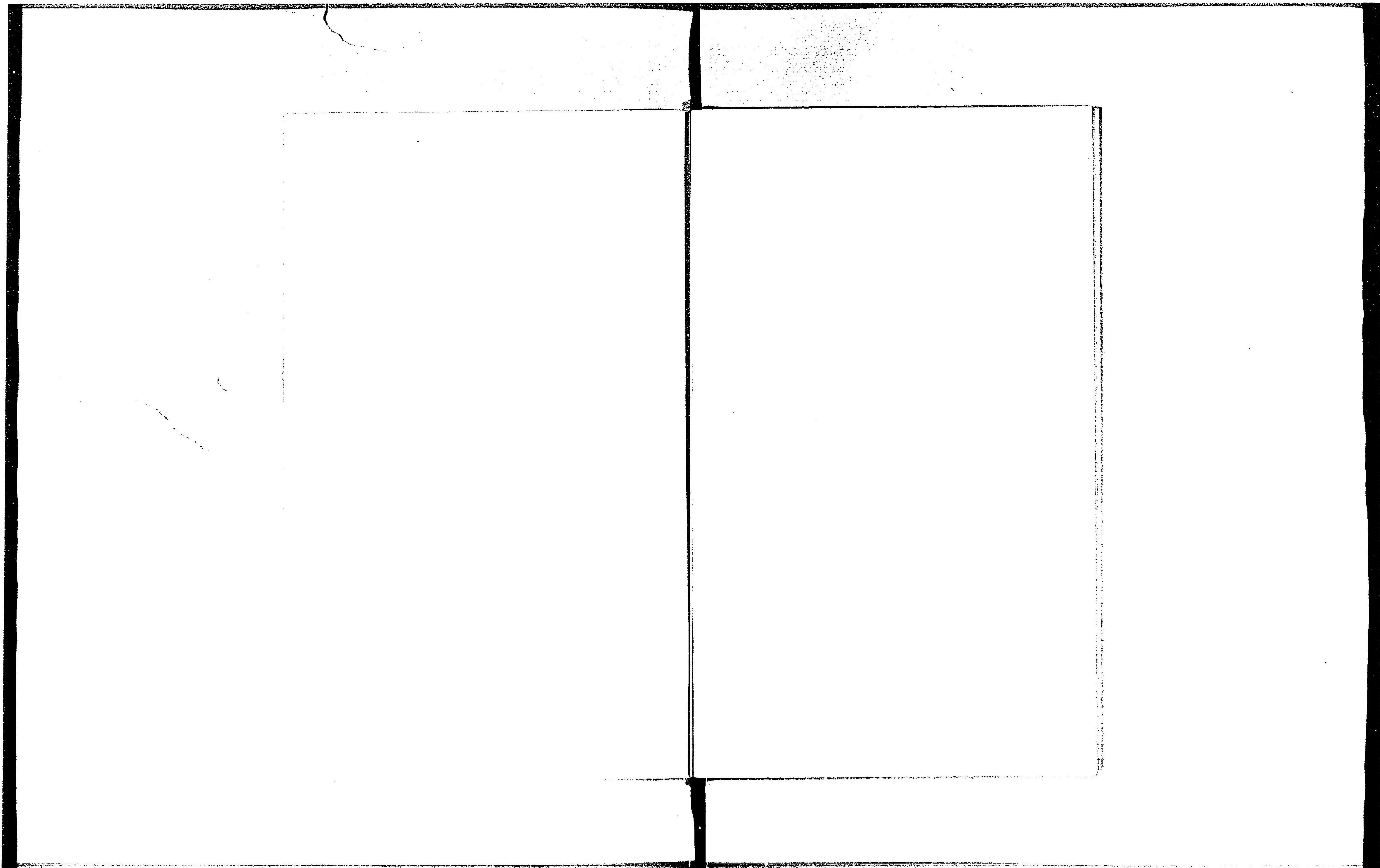
明治四十四年十二月 府令 臺灣總督府第九十九號 第百號

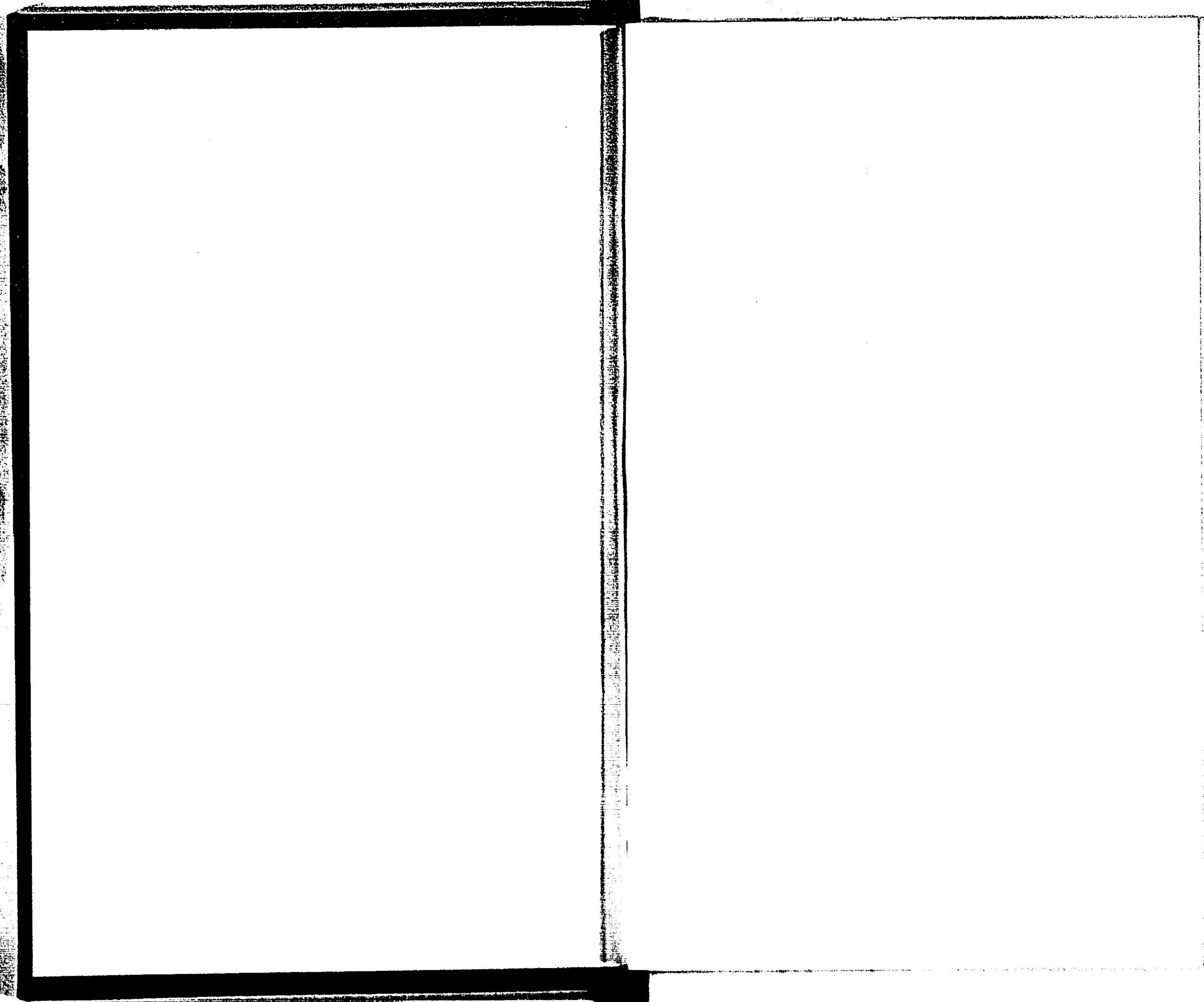
72-55

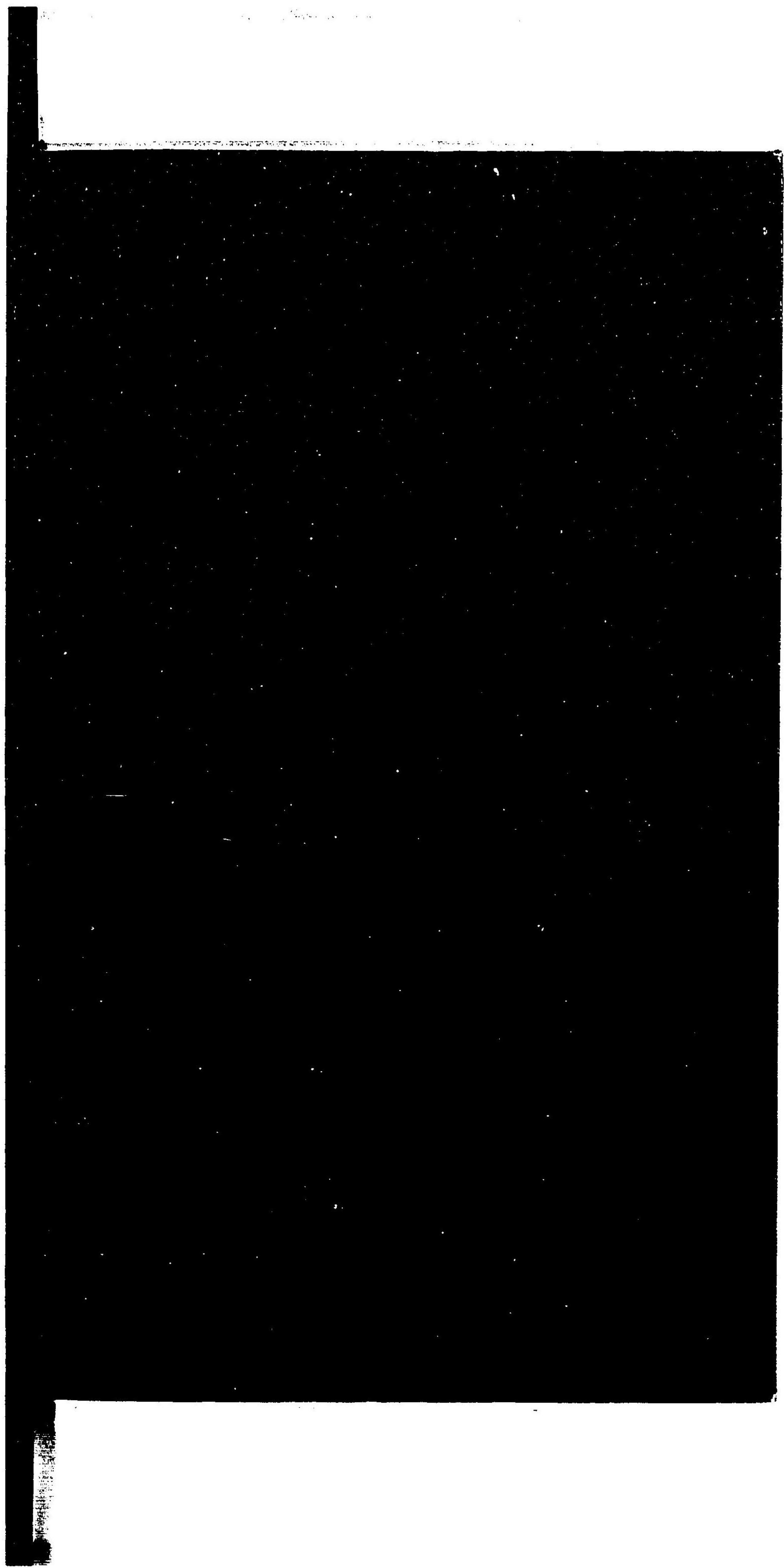


明治四十四年十二月 府令

410







031130-131-1

CZ-4-1

法令全書 慶應3年10月-明治45年7月

内閣官報局

M20-45

BBC-1090



